

Campus News

キャンパスニュース

RIKKYO NIIZA

No. 94

September 2026



卒業生インタビュー

自由な校風と専門性の高い学びが生んだ、確かな探究心

特集

他大学進学クラスって？



立教新座中学校・高等学校

特集

他大学進学クラスって？

立教新座高校の「他大学進学クラス」とは、立教大学への推薦進学ではなく、他大学受験を志望する生徒向けのクラスで、2年8組と3年8組がそれにあたります。8組の生徒は、学校行事や部活動などの高校生活を一般クラスと同じように全力で楽しみながら、受験に特化した授業環境と切磋琢磨できる仲間とともに他大学進学を目指しています。今回は、そんな8組の仕組みや特徴、学校生活のリアルを解き明かしていきます。

01 クラスの概要と選考

いつから？

2年生の1学期から卒業まで

※2・3年次のクラス替えはありません

選考方法は？

**1年次の2学期に説明を受け、志望を提出。
この時点で立教大学への推薦権を放棄します。**

何人くらい？

1クラス 約40名[2026年度 2年生 38名、3年生 30名]

※希望多数の場合は1年次の成績等で選考

学年全体での割合

**学年全体(2026年度 3年生324名)のうち、
約1割(30名・9.3%)の生徒が8組で学んでいます。**

02 一般クラスとの違い

ここは一緒！

- ・1日のコマ数(授業時間)
- ・文化祭や体育祭などの「学校行事」
- ・部活動への参加
- ・欠席の扱いや成績のつけ方 など

ここが違う！

- ・国語、数学、英語の授業

受験を意識した内容や教科書を使用。
学年、科目によってテスト内容も異なります。

- ・立教大学への推薦権

「やっぱり立教大学へ進学したい」となった場合、3年の11月時点で推薦基準を満たしていれば、立教大学への推薦進学に切り替えることが可能。その場合の内部推薦基準は、他クラスの生徒と同じです。



03 気になる疑問

Q.「学校推薦型選抜(指定校推薦)」は使えますか？

A. もちろん使えます！

毎年約70の大学から推薦枠が届き、条件に合えば応募可能です。ただ、8組の生徒は「一般入試で自分の力を試したい!」という人が多いため、実際に利用する人はごくわずかです(2025年度:2名/2026年度:0名)。

Q. 共通テストは全員受けないといけないの？

A. 受けるかどうかは自由です。

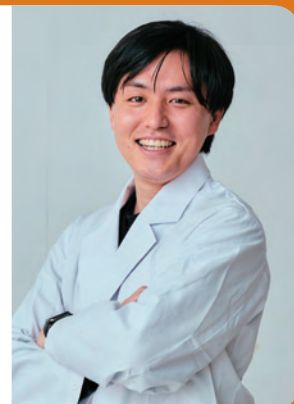
「学校の合格実績のためにとりあえず全員受けて」といったことはありません。自分が受ける大学の入試スタイルに合わせて、必要な人だけが受験します。

Teacher VOICE

文化祭も、受験も、自分らしく。全員が主役の進路探し。

このクラスは行事にも全力で、個性が光る生徒ばかり。高2の文化祭ではクラスで出展し、一体感と成長を見せてくれました。現代社会が複雑化する中、大学合格はゴールではなく「どう生きていくか」を考える通過点です。だからこそ規則正しい生活と覚悟を持って挑む大切さを伝えています。他大学進学クラスは設立以来、担任や授業担当者・進路担当など、さまざまな教職員が思いを紡いできました。立教大推薦へ切り替える仲間も含め、生徒それぞれ自分らしい進路を掴み取れるよう、僕たち教員も全力でサポートします！

2026年度3年8組担任 加藤 天

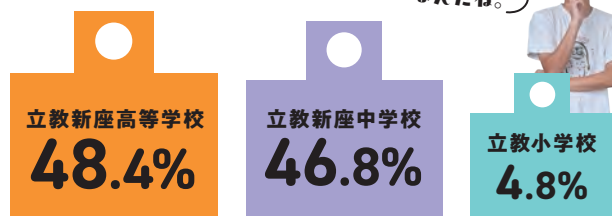


データで見る 他大学進学クラス

データを通して「他大学進学クラスで過ごす高校生活」のイメージを掴んでいきましょう。

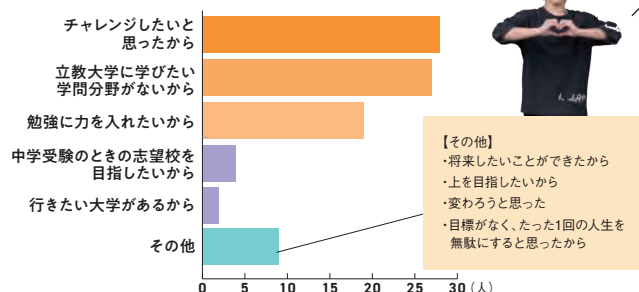
Q.1 入学はどの学校からですか？ (立教小、中、高)

約半分は
高校から
なんだわ。



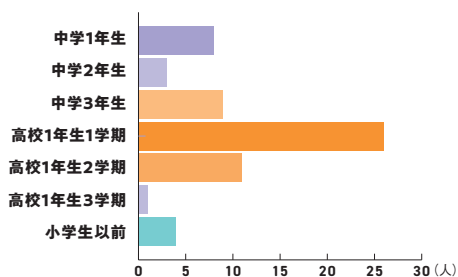
高校から入学した生徒と、立教新座中学校から進学した生徒が、ほぼ半数ずつを占めています。入学のタイミングは異なっても、現在は同じ他大学進学クラスの仲間として、ともにそれぞれの進路を目指しています。

Q.4 他大学進学を志望した理由は何ですか？



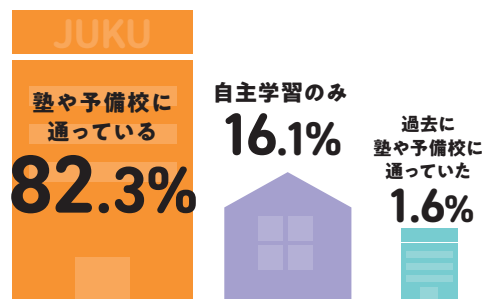
学びたい分野や将来の目標を見据え、それぞれが自分に合った進路を選んでいきます。「大学で何を学びたいか」を大切にしながら、自ら考え、未来への一歩を踏み出しています。

Q.2 他大学への進学を意識しはじめた時期はいつ頃？



最も多かったのは、「高校1年生の1学期」から進路について考え始めたという回答でした。高校生活のスタートとともに将来を見据え、自分に合った進路を考え始める生徒が多いようです。

Q.5 塾や予備校に通っていますか？



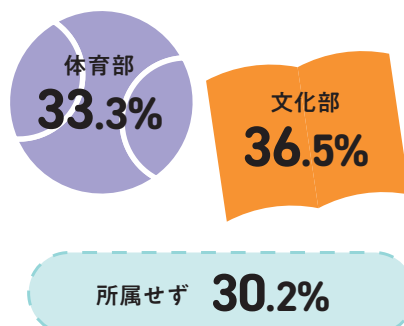
多くの生徒が、塾や予備校を活用しながら進路実現を目指しています。学校での学びを大切にしつつ、自分に合った方法を取り入れ、目標に向かって主体的に学習に取り組んでいます。

Q.3 志望する学部分野は？ 文系？理系？



文系・理系の割合は、理系がやや多いという結果に。立教大学にはない学問分野や自分が学びたい分野に強い大学へ進学したいなど、それぞれが自分の興味や目標に合わせて、選択しています。

Q.6 部活動に所属していますか？



半数以上の生徒が部活動にも積極的に取り組み、充実した学校生活を送っています。仲間と目標に向かって挑戦する経験を通して、学びだけでは得られない力や人とのつながりを育んでいます。



キャラが濃くて
常に笑いが絶えない。

自分たちの
受験本番に向けてブレずに、
精神的な緊張感を
維持し続けなければならない



勉強習慣が
しっかりと生活リズムに
組み込まれているため
辛くありません。

授業の進度やレベルが、
完全に「受験用」に特化して
構築されている。

和気あいあいと
していて
みんな仲が良い。

自分が
サボりそうになっても
周りの熱量に
引っ張ってもらえる。

温かさとユーモア
(ウェルカムな空気)が
あります。

穏やかで
優しい生徒が
多い。

みんな受験を目指し
受験の話題や勉強方法や
おすすめの参考書などの
共有があり、周りとの意気込みを
合わせられる。

他大学進学クラス って、どんなクラス?

～在校生の本音で知る、クラスのリアルな雰囲気～

授業進度が速い。
すごいスピードで
進んでいく。

自発的に勉強を
始めるような、非常に高い
「オン・オフの切り替え
(メリハリ)」がある!

やる時はやる、
という
空気がちゃんと
あります。

平日の自宅での
勉強時間は
だいたい
5時間くらい。

自由。

先生方も
「受験に特化したプロフェッショナル」
として熱心に指導して下さる。

授業の
難易度が
とても高い。

高い意識を持った
仲間たちと
切磋琢磨できる!

知ってる?
まとめ
知識

実は30年以上の歴史! 「8組」のルーツを紐解く!

8組(他大学進学クラス)の始まりは、立教高校時代の1995年度。「他大学受験希望者の増加に伴う環境づくり」「生徒の知的好奇心の向上が学校全体のレベルアップにつながるように」という思いから設置されました。当時、1学年の生徒数は約480人。1年生は1クラス50人弱で10クラス、2・3年生はそこに他大学進学クラスである「11組」が加わる形でスタートしました。2000年度に中学校が開校して1学年の定員が約320人、8クラス制となって以降、他大学進学クラスは8組として続いています。100名以上が他大学を目指して2クラス編成となった年もありました(2007年度 高2学年)。時代が変わっても、「自分の夢に挑む生徒を応援する」という思いは、今も変わりません。

時間割例〔3年生〕

CLASS SCHEDULE

2、3年ともに国語、数学、英語は他クラスと難易度、進度すべて異なり、受験を目標とした講義形式となります。

STUDENT VOICE

立教新座の恵まれた環境で部活に全力を注ぎつつ、高校受験で第一志望が不合格だった悔しさから、もう一度受験で勝負したい、そして、大学では昔から好きだった生物分野を学び「新種発見」の研究に取り組みたいという夢に向けて他大学進学クラスを選択しました。普段、サッカー部の活動で忙しく、勉強時間の確保が難しい自分にとって、授業自体が濃密な受験対策となっていたり、休み時間なども気兼ねなく勉強に打ち込めたり、8組の環境はとてもありがたいです。その上で、帰宅してから深夜まで猛勉強をしています。



田井圭吾さん [高3]

	月	火	水	木	金	土
1時間目 8:40-9:30	物理	卒論対応 講座 (入試過去 問題研究)	数Ⅲβ	物理	数Ⅲβ	英コミⅢ*
2時間目 9:40-10:30						自由選択科目
3時間目 10:45-11:35	英コミⅢ*	体育	文学国語	HR	論理・表現Ⅲ	古典探究
4時間目 11:45~12:35	論理・表現Ⅲ		文学国語	英コミⅢ*	化学	古典探究
5時間目 13:20-14:10	古典探究	化学	化学	文学国語	体育	体育は10種目 から好きなもの を選択。他ク ラスの生徒と共 うけるので良 気分転換に。
6時間目 14:20-15:10		英コミⅢ*	数学C	数学C		
放課後		サッカー部の活動に約2時間(～17:45) 本気で取り組みます。				

理社7科目から1科目選択

文系・理系を選択

※英コミⅢ：英語コミュニケーションⅢ

体育は10科目から好きなものを選択。他クラスの生徒と共に取り組めるので良い気分転換に。

生徒の一日

A DAY IN THE LIFE OF A STUDENT

6:00

起床・登校準備

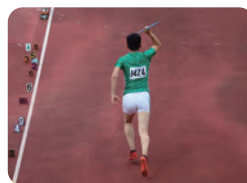
朝は6時に起床。7時頃に家を出発します。



15:30

部活動

放課後は陸上競技部で19時頃まで練習に励みます。



24:00

就寝

帰宅後は勉強をせず、入浴を済ませて24時頃に就寝します。



7:45

朝自習・授業

授業開始までの45分間、学校で自習。授業には集中します。



19:45-23:00

塾・自習

塾で21:45まで学習し、その後も23時まで自習。



部活動と受験勉強を両立するため、朝の自習から夜の塾まで時間を有効活用。限られた時間の中で毎日コツコツと努力を積み重ねています。

STUDENT VOICE

文武両道を貫き、ロボット開発で社会貢献へ。

小学校から続けてきた陸上競技を高いレベルで続けたいという思いから、強豪である立教新座中学校を志望。充実した設備にも魅力を感じました。高校3年生まで部活動に力を入れたかったため、受験情報の不足を補い、仲間と刺激し合いながら学べる環境を求めて他大学進学クラスへ。少人数ならではの家族のような一体感があり、互いに高め合えることがこのクラスの大きな魅力です。現在は、陸上競技に取り組む中で興味を持ったロボット工学に強い大学を第一志望群とし、「何があっても基礎を徹底する」という信念を胸に、日々努力を積み重ねています。

鈴木智也さん [高3]



3年6月のクラス対抗ドッジボール大会。
8組は第2位に！



INTERVIEW 卒業生インタビュー

2024年度卒業

那須 陽麦さん

Haruto Nasu

東京科学大学 物質理工学院材料系 2年

Profile

2022年 4月 立教新座高等学校入学
2025年 3月 立教新座高等学校卒業
2025年 4月 東京科学大学物質理工学院入学
2026年 4月 同 材料系所属

自由な校風と専門性の高い学びが生んだ、確かな探究心

東京科学大学で過ごす充実した学生生活

現在、東京科学大学物質理工学院の「材料系」で学んでいます。その名の通り、物質科学や応用化学などの領域において、金属やプラスチックといった“材料”に焦点を当てている系(学科のような組織区分)です。まだ学士2年の前期ということもあり、フーリエ解析や量子力学、熱力学、有機化学など基礎分野の学修が中心ではありますが、概論と呼ばれる授業で研究の先端分野に触れられるなどして、日々興味深く学びを深めています。

理系の大学というと、忙しいイメージもあるかもしれませんが、もちろん、課題に追われている時は大変さを感じることもありますが、私は新聞部と化学・物理系の自主ゼミサークルを掛け持ちしており、それぞれの活動を楽しんでいます。充実した大学生活を送れているのは、そこで出会った友人の存在も大きいです。特に自主ゼミサークルでは一つの学問に真摯に向き合う学生が多く、そんな学生たちと討論する中でたくさんの発見もあります。

元々、私は理系の大学を視野に入れていたわけではなく、法曹の道を考えていました。しかし、立教新座高校での学びや先生との出会いがきっかけとなり、物理をはじめとした理系分野に強く関心を持つようになりました。

刺激を与えてくれた先生と他大学進学クラス

私は立教新座の自由な校風に惹かれ、高校から入学しました。そこでまず驚いたのが理科系の施設・設備がとても充実していたことです。また、博士号を取得されている先生や教科書づくりに携わっている先生など、在籍されている先生方の専門性が高く、私が理系の学部への進学を考え始めたのも、そんな先生方との出会いがあったからです。

進路選択に関して、特に大きなきっかけとなった日のことは今でも覚えています。所属していた観測部の顧問で「物理基礎」の授業を担当してくださっていた島野誠大先生は、相対性理論と量子力学を統合する「万物の理論」の候補を宇宙論に応用することを目指す研究をされていました。高校2年のある日の休み時間に、多くの理論物理学者が「大統一理論」を目指す理由や「裸の特異点」の存在について私と友人に話してくださったのですが、その内容に強く惹かれ、法曹の道を視野に入れつつも、次第に理系の学部へ進みたいと考えるようになりました。そして、当時「三大学連合」(現・4大学未来共創連合)で、東京科学大学でも一橋大学の法曹関連の授業が履修できることを知り、東

京科学大を志望するようになりました。

他大学進学クラスも刺激の多い環境だったと感じます。他大学への進学を志す40名近くの仲間が周りにいて、約半数は私と同じく理系の大学・学部を目指していました。休み時間を使って一緒に参考書や問題集に取り組んだり、時には思い切り遊んだり、“受験突破”という同じ目標に向かって切磋琢磨できる点も、他大学進学クラスならではのメリットと言えるかもしれません。また、授業においては先生がただ教えるだけではなく、受験を見越して演習問題に向き合う時間を多く設けてくれるなど、「習うよりも慣れよ」という機会も多かったです。おかげで知識の定着や思考力の向上につながりました。ときには、公式をただ覚えるのではなく「なぜそうなのか」という原理から教えてくれることもあり、より理解が深まったのはもちろん、その学問自体を好きになることにつながりました。

大学のような専門的かつ自由な学修環境

立教新座の授業で印象に残っていて、かつ今に生きていると感じるものの一つに、「聖書」(高1)の授業があります。物理を探究していると自然と物理の歴史に触れる機会も多く、その中でキリスト教が過去の西洋科学の思想に影響を与えていたことを知りました。高校時代に聖書について学んでいたからこそ科学の成り立ちの背後にある思想についての理解も深まり、「科学は面白い」という気持ちがさらに強くなりました。

学校生活では、幅広い選択肢から何を選び、何を突き詰めるか、生徒に裁量を持たせてくれる場面がとても多いです。その環境を生かして自分の好きなことを見つけ、個性を伸ばす生徒がたくさんいます。さらに言うと、そんな生徒たちを専門性の高い先生方が親身にサポートしてくれます。

大学生になった今だからこそ感じることもかもしれませんが、そういった専門的かつ自由な環境は、大学への準備としてもとても有意義なもので、それらは今の充実した大学生活につながっているのだと思います。

将来の夢は、まだ一つに絞れていませんが、やりたいことの幅を狭めず、学びをさらに深めながら、自分らしい未来の可能性をじっくり広げていきたいと思っています。

(2026年8月取材)

立教新座公式Webサイト・SNS



公式Webサイト



公式LINE



公式Facebook



公式Instagram



公式note

